

## 石田弘明主任研究員

ニホンジカが高密度で生息する地域では、野生植物が著しく減少しており、生物多様性を保全する上での大きな問題になっています。

ニホンジカは草食性の大型哺乳動物です。北海道から沖縄にかけて広く分布しているほか、中国、ロシアなどの外国にも生息しています。形態などの性質が地域によって異なるため、ニホンジカは複数の亜種に分類されています。例えば、本州に生息する亜種はホンシュウジカと呼ばれています。

ニホンジカは植物の葉や茎、樹皮、果実などを食べて生活し



ています。このため、ニホンジカ

カの高密度生息地域では山野に生育する野生植物が著しく減少してしまふのです。しかも、近年はこのような地域が急激に増加しています。その結果、ニホンジカの食害による野生植物の減少と生物多様性の喪失が全国的な問題になってしまったのです。また、ニホンジカは農作物を好んで食べるため、農作物被害も全国各地で深刻化しています。

野生植物の減少や生物多様性の喪失を防ぐためにはニホンジカの適切な個体数管理が不可欠です。しかし、その実施は必ず

野生植物を栽培・育成するための施設



ニホンジカの食害によって林床が裸地化した森林



しも容易ではありません。改善の策として防鹿柵（シカの食害を防止するための柵）を設置するという対策が各地で実施されていますが、数も面積も十分ではないのが現状です。野生植物を保全するために、上述のような「生息域内保

全」の取り組みだけでなく、生息域外にある安全な施設で野生植物を保護・育成・増殖し、そのことによって野生植物の絶滅を回避するといった「生息域外保全」の取り組みを同時並行で進めていく必要があります。ひとくとはくは1992年の開館時から現在まで、野生植物の生息域

外保全のための事業（グリーンバンク事業）を継続実施しています。また、2018年度以降は、兵庫県各地で深刻化している「希少植物に対するニホンジカの食害」への対策に注力しています。

具体的には、県内で野生植物の調査・保全活動をされている方々から、ニホンジカの食害を被っている、または被る恐れがある希少植物の種子・胞子を送っていただき、これらを播種する（種をまく）ことによって希少植物の栽培・育成を行っています。また、種子については生きたままの状態でも冷蔵保存しています。このような生息域外保全の重要性は今後ますます高まっていくと思います。ひとくはこれからも生物多様性の保全に向けた取り組みを積極的に推進していきます。

ひとく  
研究員  
だより

### ニホンジカの食害

## 野生植物、生息域外で保全必要